

2026

こまつの「これから」



小松市長
宮橋 勝栄

希望ある小松を次世代へ。

1期目の4年間は、コロナ禍や豪雨災害、能登半島地震などの対応・対策に迫られる日々でした。

一方で、北陸新幹線小松駅の開業という大きな好機を迎える中、2040年ビジョンを策定し、国際空港と新幹線駅を併せ持つ強みを最大限に発揮しながら、“ウラ日本”からの新時代の地方都市づくりへの挑戦が始まりました。

昨年、皆様の支えのもと2期目に入りましたが、我が国全体で人口減少・超高齢化が急速に進行し、自治体が向き合うべき課題はより複雑になっています。**従来のコスト削減中心の改革だけでは限界がある**と実感しています。

だからこそ、これからの行政には、**市役所と都市を「経営」する視点**が必要です。経営資源を活かし、産業を育て、暮らしをよりよくすることで、**新たな価値と財源を生み出し、財政健全化と都市の成長・市民満足の向上を両立**できるよう取り組んでまいります。

そして、「希望ある小松」を次世代へ引き継ぐために、共に**新しい未来を創ってまいりたい**と思います。

●実質収支の推移（令和3年～令和7年[見込み]）

単位：億円

	R3	R4	R5	R6	R7 [見込み]
【歳入】合計	554.54	553.36	528.56	573.25	575.09
【歳出】合計	542.23	540.94	515.99	562.98	569.09
翌年度繰越額	5.81	5.01	4.23	1.92	(未確定)
実質収支額	6.49	7.41	8.34	8.35	6.00

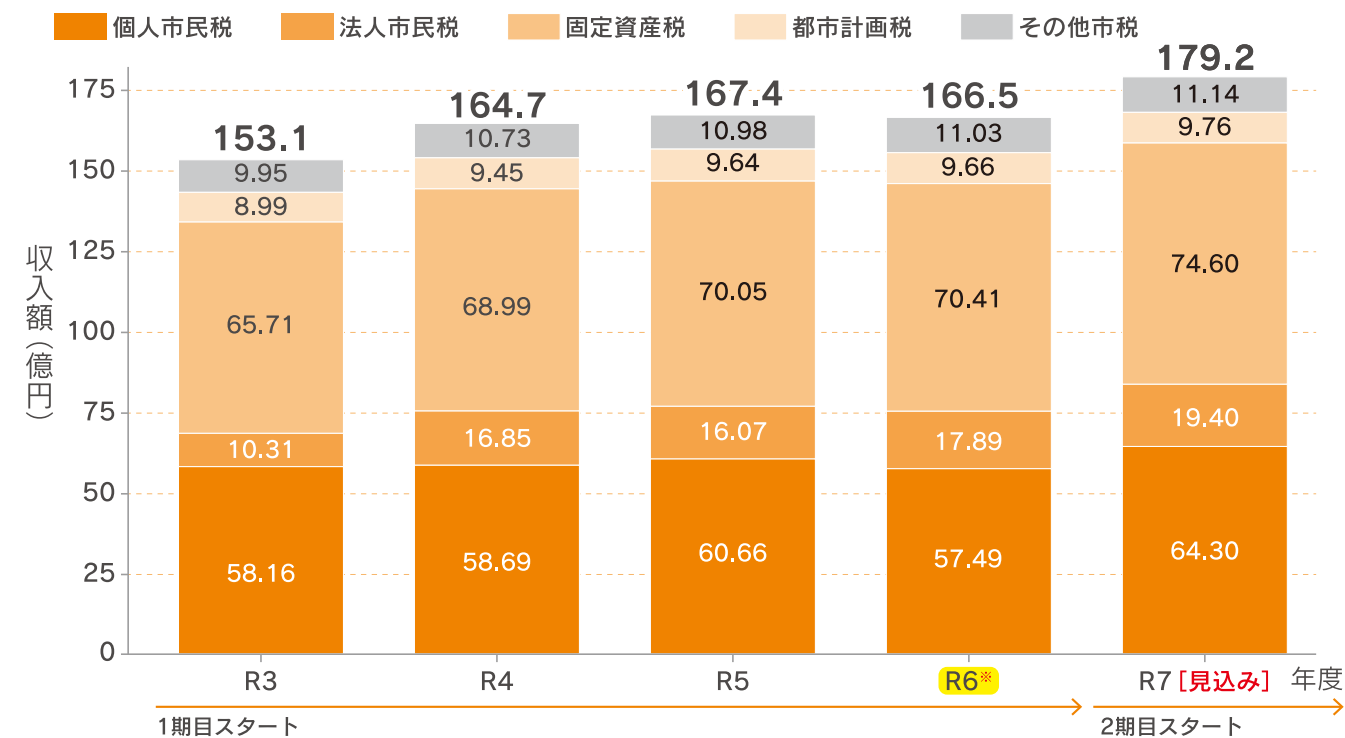
翌年度繰越額

▶年度中に完成しなかった工事代金など、翌年度へ繰り越した事業のために取って置かなければならなかったお金

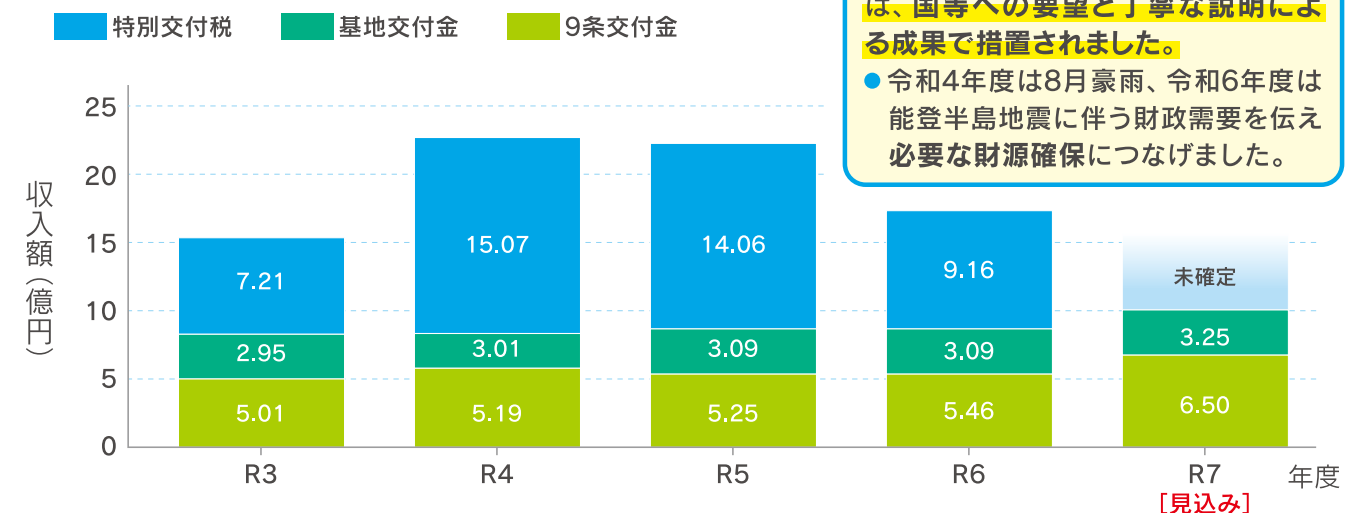
実質収支額

▶歳入総額と歳出総額の純粋な差引きである形式的な収支から、翌年度繰越額を差引いた金額

●主な市税歳入の推移（令和3年～令和7年[見込み]）



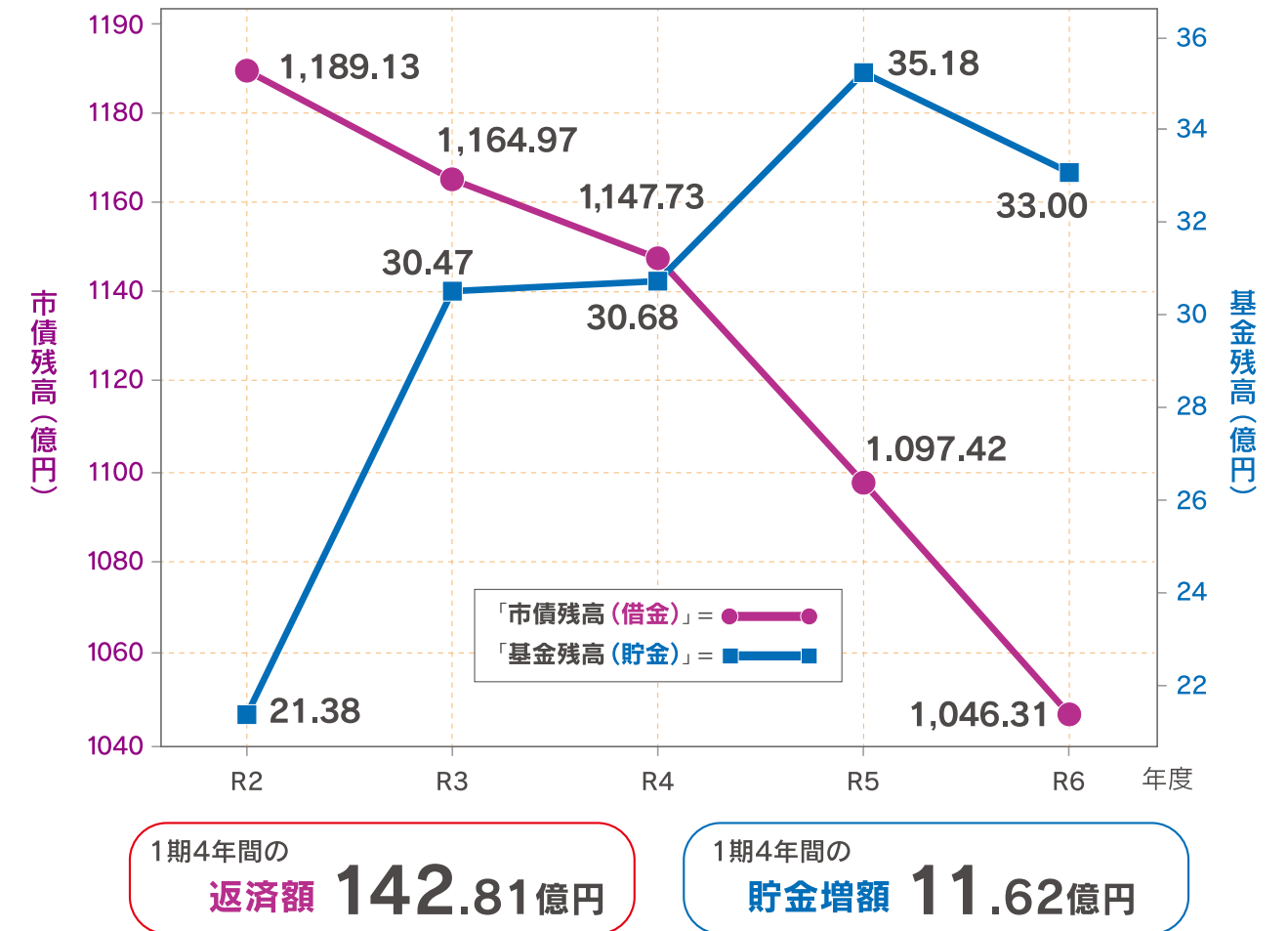
●その他収入の推移（令和3年～令和7年[見込み]）



市税は皆様の力。特別交付税・交付金は、国等への要望と丁寧な説明による成果で措置されました。
●令和4年度は8月豪雨、令和6年度は能登半島地震に伴う財政需要を伝える必要な財源確保につなげました。

●市債残高（借金）と基金残高（貯金）の推移

それぞれの推移をグラフにしました。借金が減少し、貯金が増加・維持されています。



1期4年間の
返済額 **142.81億円**

1期4年間の
貯金増額 **11.62億円**

右肩上がりの成長

市税合計は、令和3年の約153億円から令和7年には約179億円へ、約26億円（+17%）増加見込み

※令和6年については、定額減税の影響により、定額減税減収補填特例交付金4.9億円が国より補填されました。実質的には171.4億円。

内訳の特徴

法人市民税が倍増近く伸びており（約10億円→約19億円）、個人市民税も堅調です。最大の税収源である固定資産税も安定して増加しており（約66億円→75億円）、財政の安定化に寄与しています。

R3年とR7年の対比

市 税	個人市民税	法人市民税	固定資産税	都市計画税	その他市税
	111% (R3→R7年)	188% (R3→R7年)	114% (R3→R7年)	109% (R3→R7年)	112% (R3→R7年)
交付金	特別交付税	基地交付金	9条交付金		
	— % (R3→R7年)	110% (R3→R7年)	130% (R3→R7年)		

市税の合計で**117%!**



“希望ある小松市”を次世代へ。

1期目で築いた土台の上に、未来への投資をスタートさせます

重点事業をプロジェクト化 Komatsu 9 プロジェクト

1 小松空港 シン都心整備

商業・工業・公共などの多様な機能が融合した新しい集客エリアを創る



2 小松駅周辺の 再整備

新幹線効果を追い風に小松らしさと賑わいが共存する駅前に



3 芦城公園周辺の 再整備

未来型図書館を中心に知・文化・歴史・交流・緑が融合する一大ゾーンに



4 木場潟に子育て 拠点の整備

北陸随一の学び・遊びの場をつくり、2030年の育樹祭開催を実現



5 産業ブースト計画

新産業団地の整備や企業誘致の加速、起業や事業承継を促進



6 未来を育む 学びのリビルド

全小中学校と市立高校の規模・立地・教育体系の抜本的な再構築



7 南加賀の 地域医療の強化

高度な新病院建設と地域医療との機能分化・連携強化



8 地域交通の 再構築

誰もが気兼ねなくスマートな移動手段の再設計と実装



9 市税収入 200億突破計画

ふるさと納税10億円達成など戦略的な自主財源の大幅アップ



未来型図書館等総合施設

“本を借りる場所”から、“未来を創る場所”へ。



ワンランク上の生活空間あふれるこまつ

図書館を中心に、博物館機能や交流・活動支援を備えた複合施設を整備し、誰もが気軽に訪れられる居場所を提供します。



未来型図書館の資料(1)



未来型図書館の資料(2)

事業費について(施設整備費の実質負担額)

・芦城公園一帯の老朽施設を再編し、図書館・博物館・公会堂の一部機能を集約化・複合化することで、国の手厚い支援制度を活用でき、整備規模に対する**市の実質負担を大幅に抑制**

⇒ 芦城公園エリア以外で同規模の施設を整備する場合は、建設費の市負担は63億円(試算)を見込むところ
同エリアの公共施設マネジメント事業とすることで、市負担を2分の1以下(約30億円)に圧縮

	当初計画	費用更新後の計画	現在の計画 ※防衛省補助金の拡充後	※公共施設マネジメントの観点 (芦城公園周辺施設の見直し) 無しで建設した場合の試算	現在の計画との差
支出					
建設費(A)	86.3億円	105.3億円	105.3億円	同左	±0億円
国補助金(B)	国交省 31.9億円	国交省 34.0億円	国交省 53.0億円 防衛省	国交省 34.0億円	▲19.0億円
市債(C)	公債債 45.8億円	公債債 61.4億円	公債債 44.3億円	公共事業 等債など 56.4億円	+12.1億円
うち 交付税措置額(D)	22.9億円	30.7億円	22.2億円	7.5億円	▲14.7億円
一般財源 A-(B+C)	8.6億円	9.9億円	8.0億円	14.9億円	+6.9億円
市負担額 A-(B+D)	31.5億円	40.6億円	30.1億円	63.8億円	+33.7億円

大幅に圧縮(当初計画規模並みに)

未来型図書館の資料(3)

- まとめ**
- ◆ 未来型図書館づくりは、計画段階から運営までを市民と共に創り上げるというプロセスや、老朽施設の再編による芦城公園エリア全体のエリアマネジメントなど従来にないまちづくり手法にチャレンジしている総合プロジェクト
 - ◆ PFI方式による民間ノウハウや国からの手厚い支援制度(補助金)の積極活用、省エネ対策の充実等により、**市の財政負担や環境負荷を低減し、持続可能な施設運営を実現する**
 - ◆ 全世代の社会教育や各種団体活動、芸術文化振興とともに、これからの時代に必要な、生きがいづくりや多様な人びとの居場所づくりなど、教育や福祉等の幅広い分野の機能を合わせ持つ **新しい行政サービスの総合施設** を目指す
 - ◆ こうして、市民の「知」・「文化」・「交流」を育み、あらゆる人の居場所となる未来型図書館は、22世紀に橋を架ける拠点として**新時代の小松のシンボル**となる

未来型図書館の資料(4)

未来型図書館の資料をスマホで見る→



教育・少子化問題

いつだって、誰だって、新しい可能性を。



子どもたちの輝く未来創造都市こまつ

「人」こそが小松市の財産です。
誰もがいつからでも挑戦できる、そんな教育環境を目指しています。
しかし今、私たちは「**かつてないスピードで進む少子化**」という現実に向き合っています。

いつだって、誰だって、新しい可能性を

教育大綱 R7.4に5年ぶりに改定

・教育大綱とは、地方公共団体の長と教育委員会で構成する「総合教育会議」で協議し、地域の実情に応じた教育等に関する総合的な施策の目標や方針を定めたもの
・改定にあたり、教育理念、教育目標等についても見直し

教育理念 *Learn Well, Live Well*
いつだって、誰だって、新しい可能性を

良い学び（教育）が、良い暮らし（人生）につながる。
誰でも学びたいときに学べる環境がある。
「学ぶ意欲に応えたい。」それがこまつの教育理念。

未来を育む学びのリビルド 9p.6

時代に即した持続可能な学校教育環境の整備
現状・課題＞小中学校において児童生徒数が減少、老朽化した学校施設の増加
ICT教育・デジタル活用、英語・国際理解、インクルーシブなど教育内容・環境の変化…

》》未来にむけて、小中学校の**学校配置最適化**を検討

教育・少子化問題の資料（1）

児童生徒数の推移②

◆昭和57年・令和7年 小学校入学生（1年生）比較

小学校	入学生		児童数比較	小学校	入学生		児童数比較
	昭和57年	令和7年			昭和57年	令和7年	
芦城小	172	74	▲98	矢田野小	100	52	▲48
稚松小	185	59	▲126	月津小	82	17	▲65
安宅小	167	34	▲133	那谷小	19	0	▲19
犬丸小	47	16	▲31	(滝ヶ原分校)	(5)		
荒屋小	51	15	▲36	国府小	66	30	▲36
第一小	126	110	▲16	中海小	59	12	▲47
苗代小	79	85	6	(中ノ峠分校)	(2)		
蓮代寺小	45	23	▲22	東陵小	98	17	▲81
向本折小	52	33	▲19	能美小	96	37	▲59
今江小	112	55	▲57	松東みどり学園(金野小)	58		
串小	64	28	▲36	(西尾小)	(11)	16	▲42
日末小	32	19	▲13	(波佐谷小)	(13)		
符津小	77	54	▲23	(34)			
栗津小	77	24	▲53	計	1,892	813	▲1,079
木場小	28	3	▲25				

教育・少子化問題の資料（3）

教育・少子化問題の資料をスマホで見る →

医療・健康・暮らし

暮らしのベースを、強く温かく。



誰もが暮らし続けられる生涯安心のこまつ

希望ある未来には、健康で暮らせる「土台」が不可欠です。
市民病院の機能強化や予防医療など、「**人生100年健康時代**」を支える**安心**をしっかりと整えていきます。

安心の暮らしづくり、クオリティオブライフ向上

医療、健康。暮らしのベースを充実 9p.7

南加賀の地域医療の強化
小松市民病院は、南加賀の中核病院として、治し支える医療を担う**地域の医療機関(かかりつけ医)**と連携し、市民の皆さんの健康を守ります。

地域医療構想などを踏まえて
▶高度医療・急性期医療・救急医療の強化・充実
▶災害拠点病院としての機能強化

地域医療支援病院として
▶地域医療機関との更なる機能分化及び連携・再編・集約化
▶外来診療の見直し
▶入院診療の適正化

新病院の概要 ※今後、設計・施工手法を決定するため事業費・事業工程は変更になる可能性があります。

- 一般病床 約258床
(現状：275床。現状・新病院ともに南館の病床含む)
※一般病床以外(結核、感染症)10床
- 事業費 230～250億円を想定
(調査・設計、建設工事ほか。近年の病院整備事例より)
- 事業工程

R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14
構想・計画			設計		建設工事		外構工事・改修・解体	

医療・健康・暮らしの資料

医療・健康・暮らしの資料をスマホで見る →



「宮橋勝栄政策研究会」からのごあんない

小松の未来を、皆様と共に。

日頃より温かいご支援をいただき、誠にありがとうございます。

「宮橋勝栄政策研究会」は、政治や教育など様々なテーマについて語り合い、

小松の未来図を「一緒に」描くための場所です。

大切にしたいのは、一方通行の発信ではなく、皆様との対話です。

「小松を明るく、にぎやかに！」

暮らしの中の率直な想いを大切にしながら、

その実現へ向け皆様と共に歩んでいければ幸いです。

今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

目的・内容

宮橋勝栄の政治活動を支援し、
地域社会の発展を図ることを目的とし、
次の事業を実施する。

- 1 | 市政報告会の開催（毎年1月を予定）
- 2 | ホームページの運営・
市政報告パンフレット発行などの広報活動
- 3 | 政治、経済、文化、教育発展のための
政策研究会などの開催
- 4 | その他必要な事業

年会費

年額一口**5,000円**とし、
一口以上何口でも拠出することができます。

- 法人、団体、外国人、匿名からはお受けすることができません。
必ず個人名義でお願いいたします。
※所得税の寄附控除の対象とはなりません。
- 年間5万円を超える場合は、収支報告書に「寄附年月日、金額、
氏名、住所、職業」が掲載され、開示対象となります。
- 3、4の事業については、その都度会費等を徴収する場合があります。

お問い合わせ

宮橋勝栄政策研究会 小松市浮城町ト76-2 ソシアルビル2F
TEL:080-4861-4111 ※平日10時～16時

入会案内
申込書→



こまつの「これから」 2026

発行元・お問い合わせ

みやはし勝栄連合後援会 小松市浮城町ト76-2 ソシアルビル 2F

みやはし勝栄

検索